

調布市景観基本計画策定委員会とは？

調布市景観基本計画策定委員会は、市民検討会代表者(2名)、学識経験者(5名)、関係団体等(4名)、調布市(2名)で構成される委員会です。

調布市のまちづくりにおける良好な景観形成に関する基本方針としての調布市景観基本計画の策定について必要な事項を検討するためにつくられました。

調布市景観基本計画市民検討会と連携しながら、調布市景観基本計画を策定します。

調布市景観基本計画策定委員会(13名)

- 市民検討会代表者(2名)
- 学識経験者(5名)
 - ◎後藤 春彦(早稲田大学創造理工学部長)
 - 椎原 晶子(晶地域文化研究所 代表)
 - ・木下 剛(千葉大学大学院 准教授)
 - ・杉山 朗子(株式会社日本カラーデザイン研究所景観事業部長)
 - ・野口 和俊(弁護士)
- 関係団体等(4名)
 - ・東京都都市整備局都市づくり政策部景観担当課長
 - ・調布市商工会
 - ・一般社団法人東京都建築士事務所協会南部支部
 - ・NPO 法人調布まちづくりの会
- 調布市(2名)
 - ・環境部長
 - ・都市整備部長

◎委員長 ○副委員長

市民検討会のおまけ オススメのまちは？

オススメのまちは、やはり調布のまちでした。特に、仙川町、深大寺に人気が集まりました。それ以外の地域では、イスタンブール、みなとみらい、金沢という意見がありました。



調布市(4票)



仙川町(4票)



深大寺(3票)

以下、
調布市内
つつじヶ丘、染地、国領町、佐須町
その他の地域
青梅、立川、下北沢、高円寺
吉祥寺、金沢、イスタンブール
みなとみらい

参加者の
オススメのまちに
行ってみよう！



※まちの写真はイメージです。

お知らせ

第2回調布市景観基本計画策定委員会は、10月3日(月)午前10時から、教育会館2階201会議室で行います。

先着10名まで傍聴できますので、ご興味のある方は、当日、会場へお越しください。受付は、当日午前9時30分から午前9時50分までです。詳しくは、市報9月20日号及び市のホームページ <http://www.city.chofu.tokyo.jp/> をご覧ください。

景観基本計画等にご質問等のある方は、下記の連絡先までご連絡ください。

調布市では、景観基本計画の策定過程等をわかりやすく、景観だよりでお知らせをしています。

発行 調布市都市整備部 都市計画課 都市計画係

Tel : 042-481-7453 Fax : 042-481-6800 mail : tikubetu@w2.city.chofu.tokyo.jp

ちょうふ 景観 だより

第2号

平成23年9月20日発行



佐須町の田園風景

第1回調布市景観基本計画策定委員会を 開催しました。

第1回調布市景観基本計画策定委員会を、平成23年8月5日(金)に開催しました。当日は、13名の委員の方にご出席いただき、調布らしい景観形成について検討しました。

■策定委員会での主な議論■

- ・景観の大きな骨格となる崖線、河川を大切にする。
- ・市民生活の身近な景観(生活景)を大切にする。
- ・パッチワーク状に混じり合う都市景観と自然景観が調布らしい景観をつくっている。
- ・将来にわたる良好な景観形成には景観教育が大切である。
- ・小学校区単位での景観形成のための取組を検討する。 など

策定委員会での議論を、景観基本計画に反映していきます。

※調布市景観基本計画策定委員会については、4ページをご覧ください。

今号の目次

- 第1回調布市景観基本計画策定委員会を開催しました。(1ページ)
- 第2回市民検討会を開催しました。(2～3ページ)
- 景観基本計画策定委員会とは？(4ページ)

第2回 調布市景観基本計画市民検討会を 開催しました。

8月24日(水)に第2回調布市景観基本計画市民検討会を開催しました。当日は、24人の市民検討会委員にご出席いただきました。

今回は、「身近な景観を考える1」をテーマに、各委員が10枚の写真から良いと思う景観、気になる景観等を評価し、グループごとに身近な景観の見方や評価方法について整理しました。

また、「私のオススメのまち」について(4ページ参照)もお伺いしました。



第2回市民検討会の様子

～各グループのまとめ～ ※多かった意見を抜粋しています。



Aグループ

景観は快適性

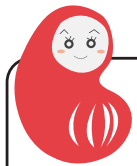
- (景観)
 - 安心して子育てができ、老後も快適に過ごせそうな景観。
- (建物)
 - 道路に対してギリギリに立っている建物は、圧迫感がある。
 - 画一化されたものより、個性のあるまちにしてほしい。
- (緑)
 - 建物の圧迫感を軽減するために緑をデザインする。



Bグループ

景観は人の営み

- (景観)
 - 景観は、人の生活感や楽しそうな雰囲気も大切。
- (建物)
 - 地域住民と協働で作成し、地域の個性を感じるデザインとする。
 - 建ち並んでいる住宅が、画一的につくられすぎていて、住民の生活感がない。
- (道路)
 - 車と人の共存できるまち。



Cグループ

景観はバランス

- (景観)
 - 田んぼ(食)のある景観は安心感がある。
 - 見覚えのある、懐かしい景観には好印象を受ける。
- (建物)
 - 建物ボリュームは、周辺との関係によりスケール感が決まると思われる。
- (緑)
 - 緑は必要だが、多ければ良いとも思わない。安全性をともなった緑が必要。

良いと思う景観



- ・田園風景に癒される。
- ・四季の変化が楽しめる。



- ・生活感がある。
- ・全体的にまとまりがある。



※多かった意見を抜粋しています。

- ・遠近感のバランスがよい。
- ・計画的に整備された風景。

【良いと思う景観に対する評価の視点】

- ・緑の量と計画的に配置された植栽。
- ・歩いて、住んで、心地よい環境(安全性も含む)。
- ・緑と人工物(建物等)の調和, バランス。
- ・生活感(人の営み)がある環境。

気になる景観



- ・同じ建物が続き、単調。
- ・緑がほしい。



- ・電柱、電線が多い。
- ・歩道が狭い。



- ・統一されすぎている。
- ・スプロール化のイメージ。

【気になる景観に対する評価の視点】

- ・統一されすぎると、景観が単調で個性がなくなる。
- ・電線が景観を阻害している。
- ・周りの環境や自然と調和していない。
- ・それぞれの家に個性がほしい。

まとめ

身近な景観では、風景や建物の見た目の良し悪しだけでなく、その環境における生活の快適性・安全性が重要な評価指標となっていました。

また、そのような環境において、人の営みや生活感が滲み出ていて、個性が感じられる景観に好感がもたれていました。

人の営みや生活感は、景観をつくりだしている大きな要素になっていることがわかりました。

自分の住んでいるまちは、自分自身も景観をつくりだしているんですね。



以下の写真は、検討会委員が評価した10枚の写真です。景観だよりをご覧ください。この写真の中で良い景観はどの写真か？なぜ、その景観が良いと感じるのか？考えてみましょう。

